

モデルプログラム I-4 日本語指導の計画と実施ー技能別日本語（読む）の授業設計ー

ねらい	読みの過程を意識して読解活動を設計する活動を通して対象となる児童生徒に適切な教材を選択・作成して指導計画を立てることができる。
対象	<input type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input type="checkbox"/> 現職一般教員 <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員／母語支援員
外国人児童生徒教育・日本語指導の経験	<input type="checkbox"/> 経験なし <input type="checkbox"/> 1年目 <input checked="" type="checkbox"/> 2-4年 <input checked="" type="checkbox"/> 5-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解） <input checked="" type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科の力の育成） <input type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養） <input type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（多文化共生社会の実現） <input checked="" type="checkbox"/> 変える／変わる力（教師としての成長）
主な内容	I 日本語指導の計画と実施
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input checked="" type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	180 分
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1. 日本語プログラム「技能別日本語」の目的を確認する。(20分) ・技能別日本語プログラム(I)	1. 日本語指導における「技能別日本語」プログラムの位置づけと指導目的を文部科学省『外国人児童生徒受入れの手引き（改訂版）』等を参考に確認する。 ・まとまった内容を聞く、話す力 ・1文を越えた文章を読む、書く力 ・高学年以降では技能に焦点化した指導が重要
2. 「読む」ことについて知る。(20分) ・読み・書きの認知プロセス(H)	2. 「読む」ことに関する心理学、第二言語習得等の理論を知る。 ・読みの過程：トップダウン、ボトムアップ、トップダウン+ボトムアップ ・目的と方略： 大意をつかむ（スキミング）、必要な情報のみ探す（スキヤニング） 予測して読む、わからない言葉を想像で補いながら読む（類推） ・多様な「読み」の経験が重要 経験に照らして読む、比較して読む・・・など
3. 指導案/活動計画を作成する。(80分) ・実態把握(I) ・目標設定都教育内容の決定(I) ・教材の分析・利用(H) ・学習指導案の作成(I)	3. グループで、外国人児童生徒等を対象に「読む」活動を設計する。 1) 以下について明確にし、読む「素材」を決める。 ・対象とする児童生徒の実態 日本語の力、読書習慣、教科の学習状況 ・身につけてほしい「読む力」とそのために適した活動 ⇒目標設定 2) 1)で選定した素材を使い、「読む」力を高めるための指導案を作成する。 <「読む」こと指導の展開例> プレ活動：素材のテーマや関連のあることばについて情報を得て話し合う。 「読む」活動：実際に読む（読みの活動の工夫は目標に応じて） ポスト活動：「読む」活動を通して理解したことと新たに学んだ日本語を整理して確認する。 ◇必要に応じて、ワークシート、視覚資料などの教材も作成する。 3) 上記の計画に必要な教材を作成する。
4. 指導案を発表する。(30分)	4. 指導案と教材を共有する。 3の1)で想定した子どもの実態と目的を明確に伝え、各グループで考えた活動の展開とそこで使用する教材について報告する。

<p>5. 指導案を再検討し、自身の指導について振り返る。 (30分) ・外国人児童生徒等教育の専門性の向上(N)</p>	<p>◇発表者以外のグループは、子どもの実態・目標・授業展開が一致しているかどうかを視点としてコメントを書き、発表したグループに伝える。</p> <p>5. コメントをもとに指導案の再検討を行い、自身の指導の改善点を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで、指導案の再検討を行い、「読む」ことを指導する際のポイントを整理する。 ・この時間に学んだことを振り返り、自身の日本語指導について改善したいと思う点とその根拠となる考えや理論を整理する。
<p>備考</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・素材をいくつか用意し、グループで決めた対象児童生徒に合うものを選択して指導案を作成してもよい。 ・1、2のポイントを10分程度で講義し、3では「読み」を扱った実践事例で授業づくりのポイントを確認していくと60～90分でも可能。